

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成21年11月26日(2009.11.26)

【公表番号】特表2006-514569(P2006-514569A)

【公表日】平成18年5月11日(2006.5.11)

【年通号数】公開・登録公報2006-018

【出願番号】特願2004-571204(P2004-571204)

【国際特許分類】

A 6 1 B 17/11 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 17/11

【誤訳訂正書】

【提出日】平成21年9月30日(2009.9.30)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

血管の側部を他の血管の側部に、血管の端部を他の血管の側部に吻合する外科用ねじ器具であって、これらの血管は、血管、腸、尿管、気管のような人体の中空管状構造であり、所定厚さの壁を有し、前記ねじ器具は、幾つかの巻きを有するねじ状螺旋スプリングと、該ねじ状螺旋スプリングに固定された切れない穿孔手段とからなり、前記穿孔手段は前記ねじ状螺旋スプリングの前端の巻きによって形成された外科用ねじ器具において、

前記ねじ状螺旋スプリングの巻きは、それらの間に所定の狭い空間をもって近接し、

前記所定の狭い空間は前記ねじ器具がそれ自身で前記管壁に突き入ることを可能にし、前記管壁が隣接する巻きの間に保持されるようにしたことを特徴とする外科用ねじ器具。

【請求項 2】

前記巻きの前端部は尖鋭で丸い断面の端部を有することを特徴とする請求項 1 に記載の外科用ねじ器具。

【請求項 3】

前記ねじ状螺旋スプリングは、前記穿孔手段を構成する 2 つの尖鋭で丸い断面の切れない先端を備えたダブルエンドであり、前記 2 つの先端は同じ方向を向くが、互いに 180 度離れていることを特徴とする請求項 1 に記載の外科用ねじ器具。

【請求項 4】

前記尖鋭で丸い断面の端部は、内方に曲げられ、かつ他の巻きに対して 10 から 20 度の角度で下方に曲げられていることを特徴とする請求項 2 又は 3 に記載の外科用ねじ器具。

【請求項 5】

前記尖鋭で丸い断面の端部は、他の巻きに対して 90 度の角度で下方に曲げられていることを特徴とする請求項 2 又は 3 に記載の外科用ねじ器具。

【請求項 6】

前記ねじ器具は、非酸化材料、又はチタン、ニチノルのような超弾性材料、樹脂材料、再吸収可能な材料で形成されている請求項 1 から 5 のいずれかに記載の外科用ねじ器具。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0016

## 【訂正方法】変更

## 【訂正の内容】

## 【0016】

## 1. シングルエンドねじ器具

この器具は、弾性を保証する4から6巻きのスプリングである。最初の3巻きは密に隣接し、すなわち、それらの間に最小の間隔があるだけである（この間隔はねじ器具が管壁にそれ自身で突き入ることを可能にする。）。シングルエンドねじ器具の一端には、極めて尖鋭な端部があり、管壁に孔をあけられる。他端は鈍い。

## 【誤訳訂正3】

## 【訂正対象書類名】明細書

## 【訂正対象項目名】0017

## 【訂正方法】変更

## 【訂正の内容】

## 【0017】

尖鋭端は、丸い断面の、すなわち、切れないが管壁に孔をあけることができる。尖鋭で丸い断面の先端は内方かつ下方に曲げられ、10 - 20°の角度（ ）で曲げられている（図3a, 3b, 3c, 3d参照）。代案として、この尖鋭（sharp）で丸い断面の切れない（non-cutting）先端は下方に90°の角度（ ）で曲げられてもよい。この場合、その先端はコルク抜きに似ているが、巻き終わりの中央に位置しているのではなく、周辺に位置している。

## 【誤訳訂正4】

## 【訂正対象書類名】明細書

## 【訂正対象項目名】0018

## 【訂正方法】変更

## 【訂正の内容】

## 【0018】

## 2. ダブルエンドねじ器具 / リング型

この器具は、弾性を保証する4から6巻きのスプリングである。最初の3巻きは密に隣接し、すなわち、それらの間に最小の間隔があるだけである（この間隔はねじ器具が管壁にそれ自身で突き入ることを可能にする。）。ダブルエンドねじ器具 / リング型の一端は、2つの尖鋭で丸い断面の切れない先端の形をとり、同じ方向に向いているが、他端から180°離れている（図4a, 4b, 4c参照）。これらの2つの先端は内方にかつ下方に10から20°の角度で曲げられている。代案として、これらの尖鋭で丸い断面の切れない先端は下方に90°の角度（ ）で曲げられてもよい。この場合、それらの先端はコルク抜きに似ているが、巻き終わりの中央に位置しているのではなく、周辺に位置している。ダブルエンドねじ器具の他端は鈍い。

## 【誤訳訂正5】

## 【訂正対象書類名】明細書

## 【訂正対象項目名】0019

## 【訂正方法】変更

## 【訂正の内容】

## 【0019】

## 3. ダブルエンドねじ器具 / 螺旋型

この器具は、弾性を保証する4から6巻きのスプリングである。最初の3巻きは密に隣接し、すなわち、それらの間に最小の間隔があるだけである（この間隔はねじ器具が管壁にそれ自身で突き入ることを可能にする。）。ダブルエンドねじ器具 / 螺旋型は、2つの尖鋭で丸い断面の切れない先端を有し、第1の先端は巻終わりで、第2の先端は巻初めであるが、他の先端と一致するように曲げられている（図5a, 5b参照）。また、これらの先端は同じ方向に向いているが、互いに180°離れている。これらの2つの先端は内方にかつ下方に10から20°の角度で曲げられている。代案として、これらの尖鋭で丸

い断面の切れない先端は下方に90°の角度( )で曲げられてもよい。この場合、それらの先端はコルク抜きに似ているが、巻き終わりの中央に位置しているのではなく、周辺に位置している。

【誤訳訂正6】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0020

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0020】

#### 4. キーリングねじ器具

この器具は2から3巻きからなり、キーリング(鍵輪)に似ている。一端には、尖鋭で丸い断面の切れない先端があり、該先端は内方にかつ下方に10から20°の角度で曲げられている。代案として、この先端は下方に90°の角度( )で曲げられてもよい。この場合、その先端はコルク抜きに似ているが、巻き終わりの中央に位置しているのではなく、周辺に位置している。他端は鈍い。2つの先端が合致するところに、リングのねじれがある(図6a, 6b参照)。

【誤訳訂正7】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0022

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0022】

5. 1 ヘッドは、2巻きと、コルク抜きの形状の両端部からなる(図7a, 7b参照)。これは、尖鋭で丸い断面の切れない先端である。ヘッドは、アプリケーションすなわちヘッドを管壁に孔をあけるのに使用されるハンドルを備えた長く薄い軸と一体である。ヘッドは、一端適所(すなわち管の中央(図7c参照))に設置されると、管壁に留まるねじ器具の残部から - アプリケータとともに - 除去される。

【誤訳訂正8】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0025

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0025】

他の形態では、管壁の孔は、基本的には外科用ナイフを使用する閉塞的方法やレーザーを使用する非閉塞的方法といった伝統的手段、またはスクリュカッターで形成することができる。この特別に設計された器具は、非閉塞的方法で操作する。それは中空シリンダの形態をとり、該中空シリンダの中で、頂部にハンドルを備えた長いシャフトが上下に移動する(図8a, 8b参照)。このシャフトは、3巻きからなるネジで終わっている。これら3巻きのうち最初の2巻きは、尖鋭な先端が中央にあるようなコルク抜きの形態をとる。これらは管壁を適所に維持するが、第3の巻きは - 360度の完全円を形成し - 孔が形成される管壁の一部を切断し除去する。第3の巻きは、下方に向かう尖鋭な縁を有するが、最初の2巻きは通常のねじのように水平である(図8c参照)。

【誤訳訂正9】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0036

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0036】

【図1】ねじ器具を用いたエンドツーサイドの吻合

- 【図 2】ねじ器具を用いたサイドツーサイドの吻合
- 【図 3 a】シングルエンドねじ器具の側面図
- 【図 3 b】シングルエンドねじ器具の平面図
- 【図 3 c】受容管の内側のシングルエンドねじ器具の内面図
- 【図 3 d】提供管にねじ込まれたシングルエンドねじ器具
- 【図 4 a】ダブルエンドねじ器具 / リング型の側面図
- 【図 4 b】ダブルエンドねじ器具 / リング型の平面図
- 【図 4 c】受容管の内側のダブルエンドねじ器具 / リング型の内面図
- 【図 5 a】ダブルエンドねじ器具 / 螺旋型の側面図
- 【図 5 b】ダブルエンドねじ器具 / 螺旋型の平面図
- 【図 6 a】キーリングねじ器具の側面図
- 【図 6 b】キーリングねじ器具の平面図
- 【図 7 a】取り外し可能なヘッドを備えたねじ器具の側面図
- 【図 7 b】取り外し可能なヘッドを備えたねじ器具の平面図
- 【図 7 c】管壁内の取り外し可能なヘッドを備えたねじ器具の位置を示す現場図
- 【図 7 d】取り外し可能なヘッドを備えたねじ器具の残部に取り外し可能なヘッドを取り付ける方法を示す図
- 【図 8 a】スクリュカッターの側面図
- 【図 8 b】スクリュカッターの平面図
- 【図 8 c】2つのレギュラー巻きと1つの尖鋭巻きからなるスクリュカッターの尖鋭端部の図